

第 87 回全国算数・数学教育 研究(長野)大会参加報告

佐倉西高等学校 かまやち 釜范 なるゆき 徳行

8月4日(木)～5日(金)まで長野県長野市の長野県民文化会館及び長野西高等学校(高等学校分科会)を会場として行われた、第87回全国算数・数学研究(長野)大会に参加してきました。今大会は「生きる力を育む算数・数学教育の創造～確かな能力の形成をめざして～」を主題として開催されました。全体会・記念講演及び分科会の様子について、簡単に報告いたします。

開会行事

実行委員長挨拶

日数教長野大会実行委員長 松林 大

ここ数年、子供たちの非行問題や学習怠惰等の問題が多発し、学校教育のあり方が問題視され、幾回ともなく教育課程の改善・改革を実施してきた。教育問題の解決には、輸入主義による物真似の教育実践や「ことばあそび」の教育研究から離脱し、学校現場は様々な外圧に対して動揺することなく、教師自らが教育の場に足を踏みしめた着実な実践的研究が必要であると感じる。

来賓祝辞

日本数学教育学会会長 澤田 利夫

現行の学習指導要領が、今年度で小中高を通じて完全実施となったが、「算数・数学的活動」をどのように具現化するか、「総合的な学習の時間」の活用や「発展的学習」の推進など、解決しなければならない問題が多々ある。また、最近の国際調査や教育課程実施状況調査から算数・数学科における生徒の「興味・関心・意欲の減退」が問題提起されており、こういった課題に対し、生徒の学習意欲の向上を図るなど、しっかりと取り組んでいかなければならない。

記念講演

「21世紀の科学教育～創造性を生む～」

信州大学工学部教授 遠藤 守信

カーボンナノチューブの第一人者であり、技術革新の最前線で活躍されている研究者として、「科学に興味を抱く魅力的な学校教育を期待し、子供たちが目的を持ちながら、夢と希望を育むような教育であってほしい。また、家庭の生活基盤と学校教育の双方が大事である。」と教育に対する提言を述べられておりました。ユーモアとデータを交えた講演に興味を持って拝聴することができました。

シンポジウム

テーマ「次期教育課程に向けて」

コーディネーター

筑波大学教育部助教授 清水 静海

パネリスト

筑波大学附属小学校教諭 清水 保宏

長野県教育委員会 龍野 武利

東京都立西高等学校教諭 逸見由紀子

名古屋大学教授 浪川 幸彦

セイコーエプソン部長 篠原 千秋

次の2点について、5人のパネリストがそれぞれの立場でお話をされました。

1. 形成したい確かな学力とは
2. 教育内容の構成や内容の改善

「1」について各先生方が共通して述べられていたのは、「自ら考える力、数学的な考え方の育成」の必要性でした。また、「2」については、今ある領域の他に、総合的かつ包括的な新しい領域を用意したり、他教科との関わりを重要視したりすることも必要であるという話題も出ていました。

分科会

分科会は12に分かれて実施されました。教育課程、学習指導法、数学的な見方や考え方、中高連携など多くのテーマが発表されていました。なお、千葉県からは次の発表がされました。

・「各高等学校における数学IIと数学Bの履修状況及び数学の学習指導等に関する調査について」

千高教研数学部会研究委員会

次回(関東大会兼全国大会)は、来夏(7/31～8/1)に東京都で実施されます。